

山武市総合計画審議会 会議録

会議名称	平成30年度第1回山武市総合計画審議会	
開催日時	平成30年8月20日（月） 開会：午後1時32分 閉会：午後4時00分	
開催場所	山武市役所第5会議室	
議長氏名	金子 光委員	
出席者氏名	別添「出欠者名簿」のとおり（17名）	
欠席者氏名	齊田 龍一委員、佐久間 一栄委員、蕨 健吉委員（3名）	
事務局氏名	別添「出欠者名簿」のとおり	
会議事項	次 第	会議結果
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 委嘱状交付 3. 会長あいさつ 4. 市長あいさつ 5. 委員・職員の紹介 6. 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本計画（骨子案）等に係る検討結果について (2) 重点分野の設定について (3) その他 7. その他 8. 閉 会 	6 (1) 原案により決定 (2) 原案により決定
会議経過	別添「会議経過」のとおり	
会議資料	（事前配布） ・平成30年度第1回総合計画審議会 次第 ・【資料1】第2次総合計画基本計画骨子（調整案） ・【資料2】施策・基本事業に係る成果指標（調整案） ・【資料3】平成29年度第2回総合計画審議会における質疑対応一覧 ・【資料4-1】重点分野の設定について ・【資料4-2】重点分野設定に係る検討表 ・【資料2-3】[参考]後期めざそう値一覧（平成30年度） ・【参考1】山武市総合計画後期基本計画の達成状況[平成30年8月現在] ・【参考2】第2次山武市総合計画策定に係る進捗状況[平成30年8月現在] ・【参考3】山武市総合計画 委員名簿[平成30年8月現在]	
その他必要事項	署名委員の指名 土屋 博文委員 今関 百合委員	
会議録の確定		
確定年月日	署名委員	
令和元年8月30日	土屋 博文	
	今関 百合	

(会議経過)

発 言 者	発言内容 ・ 意見
石橋総務部長	<p style="text-align: right;">【1時32分】</p> <p>【1. 開 会】 大変お待たせをいたしました。定刻を少し回りましたけれども、平成30年度第1回山武市総合計画審議会を開催させていただきます。 本日はお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。 私は本日の司会を務めさせていただきます総務部の石橋と申します。よろしくお願いたします。 それでは、早速ですけれども、お手元にごございます次第に従いまして進めさせていただきますと思います。</p>
石橋総務部長	<p>【2. 委嘱状交付】 次第の2、委嘱状の交付となります。今回の会議は、平成30年度に入りまして初めての会議となります。本会議の委員は関係行政機関等からご推薦によりお願いしておりますので、今回、役員の改選により委員の交代がございましたので、こちらに係ります委嘱状の交付を行いたいと思います。 それでは、事前に配付してございます、左上に「参考3」と記載してございます委員名簿をご覧くださいと思います。備考欄に、改選がありました委員にその旨を記載してございます。名簿の5番、海保委員から順番に、松上市長がお座席までお伺いいたしまして交付したいと思いますので、交付時にはご起立をお願いしたいと思います。 それでは、市長、お願いいたします。 (改選となった委員について委嘱状交付)</p>
石橋総務部長	<p>【3. 会長あいさつ】 ありがとうございました。 続きまして、次第3、会長あいさつです。金子会長からごあいさつをいただきたいと思います。よろしくお願いたします。</p>
金子会長	<p>皆さん、こんにちは。この総計審の会長を務めております金子と申します。今年、平成最後の夏でございまして、いろいろな意味で節目の年でありますけれども、今、ヤフーニュースのトップで金足農業が勝ったということで、高校野球、甲子園で今、準決勝が行われていますけれども、今年、高校野球のテーマが「本気の夏」ということだそうです。それにならって、今回の総計審は「本気の総計審」ということで私も頑張りたいと思います。 今回、本気と言ったら、前回まで本気ではなかったかということ、そうではなくて、今回はもっと本気の総計審ということで、私も全力で頑張りたいと思いますので、よろしくお願いたします。 さて、今日は小雨がちらつく中、会議が始まったのですけれども、雨と晴れ</p>

ている境界線に立ったことがあるという方、いらっしゃいますか、何人かいらっしゃいますね。これ、本当に、こっちがビショビショでこっちがカラカラということはなかなかないと思うんです。時代の変化も同じで、古い時代と新しい時代、いつの日がターニングポイントかというのを決めるのはなかなか難しいかと思いますが、今、日本全体も来年の天皇の退位ですとか、2年後のオリンピック・パラリンピックとか、大きな時代の転換点にあるかなと思います。

その流れに呼応するかのように、この山武市においても松下市長が誕生されて、今、このまちが大きく変わろうとしていると思います。まさに、この山武新時代が幕あけしたという、このタイミングでこの総計審が今日開かれるというのが意義深いというふうに思っています。

この総計審が議論するテーマというのは、まさにこのまちのグランドデザインを描く、まちの上位計画を決める会議かなと思うのです。大きなテーマとして、人口減少にどう取り組むということと理解しています。

私も、いろいろな自治体に伺いますと、「人口減少対策はどうすればいいんですか」というふうに特効薬を皆さんから聞かれます。そのときにお答えするのは、やはり、特効薬をこれだと言える人は世の中にいない。なぜいけないかというと、何か1つの問題を解決しようと思ったときに、あらゆることが全部つながっていて、1つの問題を解決しようと思ったら、結局、全部の問題を解決しなければいけなくなってくるので、この問題の答えはこれだという、1対1で問題と答えが対応していない時代ではないのかというふうに思います。

そういうふうに考えたときに、山武市の問題をこれから考えるとき、何か一つ、問題を解決しようとしたときに、やはり、山武市全体の問題がかかわってくるのではないかというふうに思います。でも、これは逆に言えば、全てが絡まっている以上、1つの問題を解決すれば全てつながっていますので、全てに波及していくのかなと。糸がこうやってもつれて絡まっていますけれども、1本の糸をグッと抜いたら、全て絡まっていますので、全てに波及して、全てにいい結果が行くのかなと、こういうふうに理解しています。

そういうことを考えたときに、今日の総計審では、100以上の計画の中で17の重点項目を議論するということなのですけれども、どこに山武市の問題があるかということグッとフォーカスして、どの糸を引っ張ったときに山武市の問題が全体的に解決するのかということを考える時間にできればなというふうに考えています。

つまり、まちのグランドデザインを描いた中でどこにフォーカスし、どの糸を抜いたときに山武市のもろもろの課題が全体的に解決できるのかという視点で選択と集中ということを考えていきたいというふうに思います。

時代は、あれもこれもの時代から、あれかこれかという選択と集中の時代です。全ての施策を重点的にできない中で、どこにフォーカスするのかということ議論できればなと思います。

この委員会は、いろいろな業界の方々もお集まりですし、部長もいろいろな

分野の部長、課長がいらっしゃっているということで幅広く、横断的に議論ができればなというふうに思います。

この会議が今日、実り多い会議となるよう祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。(拍手)

【4. 市長あいさつ】

ありがとうございました。

続きまして、次第4、市長あいさつです。松下市長からごあいさつ申し上げます。

皆様、こんにちは。山武市長の松下でございます。

私は4月から市長に就任をさせていただきました。本日は、皆さん、お忙しい中、本会議にご出席を賜りましてありがとうございます。本審議会は昨年度から審議していただいているということで、昨年度から引き続き委員をされていくくれる方、そして、先ほど委嘱をさせていただいた方、特に市の将来を占う大切な会議でございますので、改めまして皆様方にはよろしくお願いを申し上げたいと思います。

さて、山武市は、平成18年3月に3町1村が合併してできた新しいまちでございます。当時、私も山武町長としてこの合併を進めたものの一人であります。その中、山武市が誕生して、長らく前椎名市長によりまして市政運営のかじがとられてきて、新市としての今の礎を築いてくれているということでございます。この山武市、緑豊かで美しい九十九里浜を後世に受け継ぐということでご尽力をいただいたということも思っております。

その間、私も、19年に県会議員に当選をさせていただきながら、千葉県を全県的な視野から見ておりました。そして、ふるさと山武市のためにさまざまなことを吸収して研さんを重ねてきたつもりでございます。ですが、改めてその任務の重さ、今まさに身が引き締まる思いで取り組んでいるところでございます。

私ができることを考えてみましたところ、皆様方のお話にきちんと耳を傾けることが一番だろうと思っております。4月に行われました選挙期間中、そして今もですが、市民の皆様方からの声を聞いて、それを市政に反映していく、それが一番重要なことだと思っております。

そんな中、よりよい山武市を築いていくため、私個人として8つの宣言をさせていただきました。これは実にたくさんの事柄が書いてございますが、その中で中心的な考え方が、全ての取組を人口減対策につなげていくということでございます。就任当時、一番最初に職員に向けた文書の中でも、まさに、この山武市が抱えます一番大きな問題だろうと認識をしております。今回お示しをいたします総合計画の案にもこの考え方をきちんと反映をさせていただいてあると思います。

石橋総務部長

松下市長

また、今回、市長に就任し気づいたこと、改めて気づかされたことがあります。それは、人口減対策にもきっと生きるのではないかと、とてもよいアイデアもありますが、すぐにはなかなか形にできるものは多くはないと考えておりますので、皆様方のお知恵を借りながら、一つでも多くのものがもののできるよう、実現性があるかどうかという点からもご助言をいただきたいというふうに考えます。

短い4年間という計画期間で多くの課題が生み出されるものではないかと考えております。これが、まさに今回、事務局から説明のある重点分野の考え方につながってくるものであると私は思っております。

皆様方には、本当にご多忙中、貴重な時間をいただいてご出席をいただいております。長らく山武市の行政運営を見てこられた金子会長を筆頭に、委員の皆様方の各分野に精通をしている立場から忌憚のないご意見をいただき、ご審議を賜ればというように考えております。

この計画は、先ほど金子会長からも、新しい山武時代、新山武時代というお言葉もありましたが、市長がかわりまして、ある意味、世代交代ということもあるかもしれません。その中で貴重な、大事な計画をつくっていく、これがほんとうに大事でありますので、どうか、皆様方には、お立場から忌憚なくご意見を賜ればと思っておりますので、よろしくご審議をお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございます。

【5. 委員・職員の紹介】

ありがとうございました。

続きまして、次第5、委員・職員の紹介でございます。

委員の皆様方の紹介につきましては、今回新たに代わられた委員の方のみ、私どもからお名前を読み上げさせていただきます。

(改選となった委員について紹介)

続いて職員の紹介をさせていただきます。自己紹介の形で副市長から順に紹介したいと思います。よろしくお願いいたします。

(寺澤副市長から順に事務局まで自己紹介)

ありがとうございました。以上が市の職員の紹介となります。こちらが新年度の体制となります。改めましてよろしくお願いいたします。

それでは、次第6、議事に移る前に、本日の出欠状況のご報告をいたします。

本日の審議会でございますが、名簿7番の齊田委員、名簿9番の佐久間一栄委員、名簿13番の蕨委員の3名から欠席の連絡をいただいております。委員総数20名に対しまして17名の出席をいただいております。過半数を超えておりますので、本審議会運営要綱第3条第2項の規定に基づきまして会議が成立することをご報告させていただきます。

石橋総務部長

石橋総務部長

石橋総務部長

では、この後の議事につきましては、運営要綱第3条第1項の規定に基づきまして金子会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【6. 議事】

はい、ありがとうございます。市長も部長も課長もたくさん代わられて、委員も5名ほど新しくなられたということで、まさに新体制という感じ、リニューアールオープンという感じで今、気持ちを新たにしております。会長はかわらなくてもいいのかなと今、個人的に考えていたのですが、今日、頑張らせていただきますのでお願いいたします。

それでは、早速ですけれども、議事を進めて参りたいと思います。

会議に先立ちまして、山武市総合計画審議会運営要綱第4条には、会議録を作成し、この経緯、結果について、出席委員のうち議長が指名する2名が署名しなければならないと定められております。こちらにつきましては、委員名簿の順にお願いする旨、お話ししておりますので、大変恐縮ですが、土屋委員、今関委員のお二方にお願いいたしたいと思います。

なお、本審議会終了後、会議の結果は会議録としてまとめ、市ホームページなどで公開する予定となっております。各委員には後日、事務局から会議経緯について確認依頼があると思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。(1)基本計画(骨子案)についてとなります。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

それでは、私、企画政策課政策・シティセールス推進係の岩澤からご説明をさせていただきます。失礼をさせていただきます。着座にてご説明をさせていただきます。

ご覧いただく資料でございますが、まず、資料1「第2次山武市総合計画基本計画骨子(調整案)」A3縦のカラー刷りのものになります。それから資料2「施策・基本事業に係る成果指標(調整案)」A4横とじのカラー刷りのものになります。それと最後にもう一つ、資料3「平成29年度第2回総合計画審議会における質疑対応一覧」、こちらがA4の横とじのモノクロのものになります。お手元にご用意いただけますでしょうか。

まず初めに、資料3「平成29年度第2回総合計画審議会における質疑対応一覧」を使ってご説明をさせていただきます。

こちらは、平成30年3月に開催をいたしました平成29年第2回総合計画審議会において委員の皆様方からいただいた質疑への対応について、市役所内部で調整した結果を表の右から2列目の質疑への対応欄に記載してございます。こちら、全部で27項目ございます。説明は25分程度お時間をいただきまして順番にご説明をさせていただきます。

まず、議事1、総合計画策定に係る概要及び山武市の現状についての質疑で

金子会長

事務局

ございます。

通番 1、小川真実委員から、序論（案） 1 ページ「1. 計画の趣旨」において「さまざまな施策を、バランス良く……」と、策定の基本姿勢に「③経営資源の選択と集中……」とあるが、相反する考え方ではないかという質疑がございました。対応といたしましては、会議時にも、計画書の策定においては、最上位計画として全政策を網羅すること（＝バランス）と、重点施策・目標値設定の加重配分（＝メリハリ）を考えており、計画書としては矛盾していない状況であることをご説明させていただきましたが、今後の審議会では、重点分野及びこれに基づく実施計画（案）の調査・審議を行う予定となっておりますので、具体的な事業等をご考慮いただきながら、実効性のある計画策定に向けて、継続的にご審議いただければと考えています。

続いて、通番 2、小川真実委員から、序論（案） 2 ページ、「(3) 実施計画」において、3 年間・1 年ローリングとあるが、佐倉市を参考にした場合、計画期間 4 年間と整合させたほうが予算縮減効果が図りやすいのではないかとの質疑がありました。対応といたしましては、佐倉市の実施計画を確認させていただいたところ、前期基本計画（H23 年度～H27 年度）においては時点修正による削減額を明示しておりましたが、後期計画（H28 年度～平成 31 年度）については 3 年間のローリング方式となっています。市では、行政運営の継続性を意識し、3 年間・1 年ローリングを採用しつつ予算縮減に努めていきたいと考えております。

続いて、通番 3、小川真実委員から、序論（案） 5 ページに地方創生戦略との連動が掲げられているが、同戦略は長期の人口推計を行っており、過去の財政規模を考慮した将来の財政推計を行っているのかとの質疑がございました。対応といたしましては、今年度、平成 39 年度までの財政計画を策定する予定としています。策定予定の財政計画においても、人口減少の影響を考慮するとともに、総合計画の実施計画でも財政推計の結果を踏まえた 3 カ年の推計額を掲載することとしたいと考えています。

ページをめくりまして、2 ページ、議事（2）基本構想の構成及び基本計画骨子案についての質疑でございます。まず、ア、基本構想部分での質疑です。

通番 4、小川真実委員から、基本構想（構成案） 1 ページ、「2. 基本構想」に「成田国際空港と圏央道ネットワークを意識したまちづくり」とあるが、成田空港への重点化に伸びしろはあるのかとの質疑がありました。対応といたしましては、会議時に成田空港の従業員者数、従業者割合をご回答し、加えて、成田国際空港機能強化により空港内従業者が 4 万人から 7 万人に増加見込みとなることをご説明させていただき、その席上でご理解をいただいているかと思っております。

続いて、通番 5、小川真実委員から、通番 3 の質疑に関連し、基本構想（構成案） 3 ページにおいて、10 年後に 5,000 人程度の人口減少が見込まれる中、平成 39 年時点の財政推計は行っているのかとの質疑がありました。対応といた

しましては、直近では、平成 28 年度から平成 37 年度までの財政計画を策定しておりますが、新たな大型事業等も見込まれることから、今年度、平成 39 年度までの財政計画を策定する予定としています。なお、推計に当たっては、人口減少の影響を考慮することといたします。

次に、イ、政策 1 「暮らしを支える快適なまちづくり」での質疑でございます。

通番 6、相原委員から、(新体系) 1-1 「地域核をネットワークする都市整備の推進」のうち、③「浸水対策の推進」とあるが、一見すると(新体系) 1-3 「防災・減災対策の推進」に位置づけられると思われるが、いかがかとの質疑がございました。対応といたしましては、施策 1-1 「地域核をネットワークする都市整備の推進」のうち、基本事業③「浸水対策の推進」につきましては、本来、あるべき箇所の雨水・排水施設の未整備、また排水対策の整備水準に達していないため起こる浸水被害に対し対策を行う都市基盤施設等の整備を対象として考え設定したもので、体系としては適切なものと考えています。

3 ページに移りまして、続いて、ウ、政策 2 「住みやすい環境と安全なまちづくり」での質疑です。

通番 7、今回の役員改選によりかわられておりますが、鈴木謙治委員から、(旧体系)「自然環境の保全」と(旧体系)「汚水処理の推進」の統合に関連して、生活排水や工業排水で環境汚染されている現状がある。箇所としては、農業集落排水が含まれるかわからないが、個人としては 3、4 年、市の担当課に意見を出しているが対応状況はどうなっているのかとの質疑がありました。対応といたしましては、市では、市内 12 カ所で水質調査を実施しており、平成 29 年度調査では、作田川水系の 2 地点において、BOD 濃度が基準値を超過している箇所がございました。原因としては、天候及び流量による増減が考えられますが、引き続き、合併浄化槽、農業集落排水の普及推進を図っていくことで良好な環境維持に努めてまいりたいと考えています。

通番 8、小川真実委員から、(新指標)「3R の推進」の(4)「リユースを意識して行動している市民の割合」について、どのような指標取得を考えているのかとの指摘がありました。対応といたしましては、行政が主体的に取り組める事業を改めて検討した結果、ごみの減量化と再資源化の推進であるため、リユースについては明示しないこととしました。このため、基本事業名を「ごみの減量化・再資源化の推進」に修正することとしました。

続いて、通番 9、小川真実委員から、(新指標)「交通安全意識の向上」の(1)「市民の交通違反件数」とあるが、市の裁量がどこまである事業なのか。また、シティプロモーションの観点から望ましい指標設定なのかとの指摘がありました。対応といたしましては、市が行う交通安全啓発看板の設置や、市が支援する安全協会による街頭監視や啓発活動により、市民の交通安全意識が向上し、市内の交通安全違反件数の減少につながるが見込まれるため、アウトカム指標設定の原則から妥当であると考えています。なお、本指標値の減少が安全

に暮らせる生活環境の実現や、その定評形成につながるため、シティプロモーションの観点からも適切なものと考えております。

ページをめくりまして4ページになります。続きまして、エ、政策3「にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり」での質疑です。

通番10、相原委員から、(新体系)「地域経済の振興」について、農業や観光分野も包含しており、ネーミングとしていかがかとの質疑がありました。対応といたしましては、構成する基本事業等を考慮し、再度、検討を行いました結果、施策名を「商工業の振興と地域経済活性化」に修正することとしました。

続いて、通番11、相原委員から、(新体系)「市内購買力の向上」に対する指標が、「市内で日用品や食料品を買う市民の割合」となっている。この指標であると、市民の経済力に依存しているのか、違和感を感じるがいかがかとの質疑がありました。対応といたしましては、ご指摘をもとに再度検討を行った結果、基本事業名を「市内消費の向上」に修正することとしました。

続いて、通番12、小林委員から、(新指標)「観光情報の発信」、(2)「SNSでの発信件数」とあるが、現在行っているものは何かとの質疑がありました。対応といたしましては、現在、山武市観光協会において、Facebook及びTwitterアカウントを開設しており、本発信への情報提供等で支援をしているところです。加えて、市政情報の発信についても、情報発信力の充実の一環として導入に向けて取り組んでいく予定としています。

通番13、鈴木章浩委員から、今回の計画策定においては、グローバルな視点が入り、インバウンドが考慮されており、よいと考えるとの発言がございました。こちらについては、会議時にご意見として承りました。

通番14、金子会長から、インバウンドに関連して、海外からの来客数を指標立てすることは可能かとの質疑がありました。対応といたしましては、「REASAS」と呼ばれる国の情報支援では、インバウンドに係る統計資料も掲載されていますが、県単位の分析にとどまっています。なお、市内での外国人観光客受け入れに関しては、観光案内マップの多言語化や市有施設への外国語表示看板等を行う等、体制づくりに努めています。

5ページに移りまして、通番15、小川真実委員から、(新指標)「観光情報の発信」、観光協会HP閲覧者については、元来やるべきことであって、指標設定する必要があるものなのかとの質疑がありました。対応といたしましては、本基本事業は、現行の総合計画のうち、基本事業「観光事業推進体制の整備」と、同じく基本事業の「観光関連団体との連携によるイベントの開催」を統合して設定するものです。本基本事業の趣旨としましては、観光振興に当たって観光協会の育成支援を行うものであり、より成果が測定しやすい指標設定に見直しを行うことにしました。

変更内容につきましては、資料2、A4横とじのカラーのもの2ページに記載してございますので、あわせてご覧いただければと思います。資料2、上段の黄色の網かけの部分です。

なお、資料2につきましては、その他の項目を含めまして変更点を赤字及び黄色の塗りつぶしで示しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

続いて、通番16に行きます。浪川委員から、情報出しとして、事業者の実感としては、インバウンドは全来客中1%にも満たない状況との発言がございました。こちらについては、会議時にご意見として承りました。

次に、政策4「だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり」での質疑です。

通番17、小林委員から、政策4の表題「だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり」に関連して、LGBT等のマイノリティに関して漏れ落ちていないかとの質疑がありました。対応といたしましては、今後の分野別計画を作成する過程で、施策「人権尊重のまちづくり」において位置づけることを予定しています。なお、現在、策定作業を進めている「第3次男女共同参画計画」においても位置づけを行う予定としています。

続いて、通番18、小川真実委員から、医療費助成や不妊治療への支援等が指標に位置づけていないと見受けられるが、対応状況はどうかとの質疑がありました。対応といたしましては、会議時に、指標では特出ししておりませんが、個別事業では対応していることをご説明させていただきました。

ページをめくりまして6ページ、カ、政策5「生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり」での質疑です。

通番19、今関委員から、英語教育に係る指標設定を行っていただきたいとの発言がありました。こちらについては、会議時にご意見として承りましたが、現状といたしましては、新指標『『確かな学力』の向上と『生きた学力』の推進』、(3)「中学校卒業後に英語検定が4級以上と認められた生徒の割合」で設定を行っている状況でございます。

続いて、通番20、今回の役員改選により代わられておりますが、土屋典子委員から、新指標『『豊かな心』を育む』、(3)「道徳性、規律性がある児童・生徒の割合」については、どのように指標取得を考えているのかとの質疑がありました。対応といたしましては、会議時に、学力状況調査により、小学校6年生、中学校3年生の児童・生徒に対してアンケートを行うことをご説明させていただきました。

通番21です。青少年育成市民会議会長の戸村委員に政策5について意見を伺ったところ、特にありませんとのことでした。

次に、キ、政策6「市民と行政が協働してつくるまちづくり」での質疑です。

通番22、小川真実委員から、(新基本事業)「PDCAサイクルの推進」とあるが、当然行うべきことであるため記載する必要があるかとの質疑がありました。対応といたしましては、行政改革に係る取組を組み込む経緯から再検討を行った結果、「行政経営の推進」に変更するとします。なお、行政評価については、一般市で4割弱の導入にとどまっていることから、引き続きPDCAサイクルを意識した指標による管理を推進して参りたいと考えています。

通番 23、相原委員から、(新施策名)「まちの魅力発信の推進」とあるが、構成基本事業に②「広聴の充実」や、③「議会情報の公開の推進」が含まれている。(旧施策名)「開かれた市政」のほうが妥当と考えるが、いかがかとの質疑がございました。対応といたしましては、ご指摘をもとに再度検討を行った結果、施策名を「開かれた市政とまちの魅力発信」に変更することとしました。

最終ページ、7ページに移りまして、通番 24、小川真実委員から、(新指標)「公平・公正な課税」において、「不服申立等により課税誤りになった件数」とあるが、金額ベースのほうが妥当ではないかとの質疑がありました。対応といたしましては、会議時にも件数を減少させることが望ましいと考えていることをご説明させていただきましたが、本施策の意図は、適切な事務執行を確保することであり、不服申立等に至らないよう適切な事務執行を行うことが市民に対しての説明責任を果たすことにつながるため、原案どおりの指標設定が妥当であると考えています。

通番 25、小林委員から、(指標) 6-1「協働と交流によるまちづくり」、(2)「NPO・ボランティア活動をしている市民割合」があるが、行政が十分に市民活動を捉え切れていないと感じている。さらなる連携を行ってほしいとの発言がございました。こちらについては、会議時にご意見として承りました。

通番 26、小川真実委員から、資料 2-3 の中で、一部付番誤りがあるので訂正いただきたいとのご指摘をいただきました。こちらについては修正をさせていただきました。

次に、ク、その他(全体に係る質疑)での質疑です。

通番 27、相原委員から、(資料 2-1)基本構想(構成案)のうち、「5、土地利用構想」のゾーニングは理解できるが、各ゾーンにおける目玉事業を記載する等、市民にわかりやすくできないかとの質疑がありました。対応といたしましては、各地区で交流拠点が整備されたことを受け、今後の編集過程で施設を明示したいと考えています。

以上が平成 29 年度第 2 回総合計画審議会における質疑への対応となります。

ただいまご説明した内容につきましては、資料 1、第 2 次山武市総合計画基本計画骨子案、A 3 縦のカラー刷りのものですが、こちらでは、今回、調整したものを青字で示してございます。

説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

金子会長

はい、ありがとうございました。事務局から資料に基づき、(1)基本計画(骨子案)等に係る検討結果について説明がありました。

こちらは前回、委員の皆様方からご質問やご提案があったものにつきまして、それぞれ、対応方針をご報告いただきました。その結果、前回、骨子案として示していた基本計画の体系図や成果指標につきまして必要な修正を行い、市民にとって、よりわかりやすく合理的な計画策定に向けて改善が図られたものと思います。

最後にご紹介いただきました資料1の青字が調整されたところなのですが、皆さんの意見を踏まえて、施策名ですとか、基本事業名のタイトルそのものが変更されたということで、ここで前回議論されたことが、いかにフィードバックされているのかということがよくわかると思います。

それでは、皆様方から何かご不明な点や、これだけは確認されたいということがございましたらお受けしたいと思います。ここまでの話で何かご不明点があればお願いいたします。

ご不明点などがなければ、議事を先に進めさせていただきたいと思います。

前回、皆様方からいただきました質疑につきましては、市役所内部でも大いに議論した結果、おおむね良好に反映されているものと思います。時間の都合もごございますので、議事を先に進めさせていただきたいと思います。

では、ここで、一旦、10分程度休憩時間を取りたいと思います。2時27分ごろに会議を再開したいと思います。それまでにお座席にお戻りいただきたいと思います。では、お願いいたします。

会議休会

【2時17分】

会議再開

【2時27分】

金子会長

それでは、皆さんおそろいですので会議を再開したいと思います。

では、議事(2)重点分野の設定についての審議を行いたいと思います。ここが本日のメインテーマでございます。

それでは、事務局から説明をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

中村企画政策課長

企画政策の中村でございます。私からは重点分野の設定についてご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

説明に入る前に、重点分野とはどんなものなのか簡単にお話しさせていただきます。

まず、市は、市民の皆様方の生活を支えるためさまざまな事業を行っております。このため、総合計画は、市の、ありとあらゆる取組をまとめた計画となっております。一方で、今回策定する総合計画で、計画期間は4年間となりますが、市の将来を考えたとき、戦略的に目標を立てて達成したいこと、達成すべきこともあろうかと思っております。それを明確にお示しすることが今回の重点分野の考え方となるところでございます。

重点分野を設定する際には、タカ目、アリ目ではないのですが、さまざまなデータを突き合わせて考えていかなければならないと考えております。データとしては、当然のことなのですが、この4月に松山市長が就任されまして、市長が達成したいことを聞き取ってございます。加えて、今まで総合計画に取り組んできた中での達成状況、そして係長以上の職員に対して重要度アンケートを行っております。市役所内部で議論を重ね、今回、重点分

野としてお示しするに至っております。資料も多くございますので、早速、順を追いながら説明したいと思います。

では、初めに、事前にお配りしております【参考1】山武市総合計画後期基本計画の達成状況（平成30年8月現在）というものをお手元にご用意いただきたいと思っております。

こちらは、平成25年度から今年度の平成30年度までを計画期間としております現在の総合計画の報告になりまして、まさに今までどれだけ総合計画の内容が進んできたのかを表すものとなります。

資料の冒頭、1段目に書いておりますが、総合計画は、政策から施策、基本事業、事務事業と入れ子のような形で構成しております。29ある施策には55の成果指標、その下には120の基本事業、そして239の成果指標を設定してございます。

では、目線を右下に移していただきますと、※のところでございますが、施策と基本事業の達成数について、平成28年度と29年度の比較を示してございます。施策は、平成28年度18に対しまして29年度17となっております。増減では1指標の減少となっております。同じく、基本事業は、前年度比較で7指標の減少となっております。

減少の理由は幾つか考えられますが、大きく3つを想定してございます。まず1つ目は、指標値の取得に市民3,000人を対象にアンケートを行っておりますが、毎年、違う方をお願いしているものですので、毎年、若干のばらつきがございます。今年度、実施したものが全体的に下振れていることが影響しているものと考えております。

2つ目は、目標設定が非常に高水準であるため達成を維持し続けられなかったもの。

3つ目としては、昨年度の総計審でお諮りしましたけれども、現在の総合計画の延長に当たって目標値を単純に1年分増やしたものがございます。このため、達成からこぼれてしまった指標がございます。これら3つの要因から全体的に達成度が低くなってしまったものと考えております。

それでは、3つある施策ごとにかいつまんでご説明いたします。ページを1枚めくっていただいて、政策1です。こちらは、指標の達成状況に大きな変化はございませんでした。

続いて、下側のページ、3ページ目をご覧くださいと思います。政策2です。政策2「廃棄物の減量・処理の適正化」の成果指標（1）「1人1日当たりのごみ排出量」がございまして、一番右側の29年度の目標達成度のところをごらんいただきたいと思っておりますが、「達成」から「高」になっております。これは、先ほど申し上げましたが、総合計画の延長に伴う目標の上方修正によるものでございます。

続いて、ページを2枚めくっていただいて、政策3です。こちらは6ページ目でございますが、政策3の「観光の振興」の成果指標（2）「年間宿泊観光客

数」でございますが、先ほどと同じく、総合計画の延長に伴って「達成」から「高」になってございます。また、この政策では、基本事業が「低」が1件増加しております。

同じく6ページ目の下のほうでございます。政策4「シティセールスの充実」の基本事業1「情報発信力の強化」の成果指標(1)「情報提供件数」がございしますが、こちらはイベント等の増減を受けることもあり、残念ながら29年度は減少しております。

すぐ下の(2)「報道件数」も併せてご覧いただきたいと思いますが、指標全体は堅調に推移しておりますが、これからも引き続き力強く取り組む必要があらうかと考えてございます。

では、次は政策4です。1枚めくっていただきまして、8ページでございます。施策4「子育て支援」の基本事業3「子育て家庭への援助」の成果指標(2)「ひとり親家庭の自立率」がございしますが、こちらは打って変わって「高」から「達成」となっております。これは、母子家庭自立支援給付金事業等が一定の成果を出しているものと考えております。

次は政策5です。この政策では、市民アンケートの下振れ傾向により「達成」でなくなったものが4指標ございます。

9ページ、施策2「生涯学習の推進」の基本事業1「学習ニーズに対応した学習機会の提供」の成果指標(1)「生涯学習の機会が充実していると思う市民の割合」。それから、5つ下の基本事業4「芸術文化活動の充実」の成果指標(1)「芸術文化の鑑賞の機会が充足していると思う市民の割合」。さらに4つ下の(1)「スポーツ大会・教室へ参加した市民の割合」。もう一つ下の(2)「スポーツ大会・教室の機会の充足度」、この4つの指標がアンケート結果の影響を受けてございます。

最後に政策6です。ページを1枚めくっていただき、下側の11ページでございます。政策2「開かれた市政」の基本事業1「広報の充実」の成果指標(2)「広報がわかりやすいと思う市民の割合」ですが、指標値が高い値で推移してございます。昨年度は「達成」でございましたが、本年度は「高」となっております。

以上が今までの総合計画の状況を参考としてまとめたものでございます。

では、この状況を踏まえまして重点分野の設定を行っておりますので、重点分野の考え方から引き続きご説明いたします。

お手元に資料4-1「重点分野の設定について」と書かれたA4縦書きの資料をご用意いただきたいと思っております。

まず、黒抜きの1「重点分野の考え方について」をご覧ください。3つの段落に分けて重点分野のコンセプトをまとめてございます。点の1つ目、冒頭にお話ししたことと重複いたしますが、大切なことは、直面している人口減少に関して、限られた人員や財源の中でその課題に対応するというところでございます。重点分野は、ある意味、市の最優先の事業を示したものとなります。

点の2つ目でございます。大切な考え方なので読み上げます。「重点分野は、人口増加につながる新規性や独自性を持った『成長戦略』と、高齢化や人口減少に対応したまちづくりとなる『人口減少対策』に分けて、基本事業単位で設定を行います」とございます。松下市長は、就任されてから全職員に向けて、あらゆる施策は人口減少対策につなげるのだという指示をされました。当然、現場レベルでも人口減少は喫緊の課題であると感じております。人口減少にきちんとフォーカスを当てて、実効性の高い計画を出したいと思っております。

加えて、改善ポイントになりますが、現在の総合計画では、重点分野を施策単位で行ってございましたが、今回は、より具体的な基本事業単位の設定を行って、市民に対するメッセージ性を強く打ち出していきたいと考えております。

点の3つ目です。重点分野となった基本事業は、次回の審議会でご議論いただきますけれども、成果指標に対して高い目標設定を行います。また、総合計画の別冊になるものですが、実施計画に対しても事業の掲載を行いまし、予算編成においても優先的な取り扱いをしたいと考えてございます。

このような考え方で、今回、重点分野としては全部で108基本事業のうち17基本事業を設定したいと考えております。

黒抜きの2、重点分野（案）をごらんください。

重点分野を大きくA、B、Cと3つに分けております。まずAは成長戦略（短期）と銘打っておりますが、これは、次期総合計画の計画期間内、4年間で何かしらの成果を期待して取り組むものや、先進的な事業を掲げたいと思っております。こちらは8つの事業を予定しております。

次にBの成長戦略（長期）は、今回の計画期間4年間は超えてしまいますが、腰を据えて行わなければならないものを示してございます。こちらは4つの事業を予定しております。

最後にCの人口減少対策は、さまざまな手立ては打ちつつも、人口減少はすぐには歯どめはかかりません。人口が減る中でも市民生活の維持に欠かせないものを示してございます。こちらは5つの事業を予定しております。

この先の説明は、資料4-2「重点分野設定に係る検討表」を使ってそれぞれ、重点分野の設定に至った理由を説明したいと思います。A4の横書きの資料をご用意いただきたいと思います。

まずは表の見方でございます。表の左側に通し番号を打ちまして、その右側に、先ほどの成長戦略（短期）、成長戦略（長期）、人口減少対策の3つを示しております。計画体系には、施策名と基本事業名を、行政評価の状況には、この10年間で成果指標の状況と関連する事務事業等を記載しております。一番右側のその他の欄には、重点分野とした目的と具体的に行うこととを端的にまとめております。

では、通し番号の1番から順番にかいつまんでご説明したいと思います。

まず、通番1です。施策1-1「地域核をネットワークする都市整備の推進」の基本事業名①「道路網の整備・維持管理」です。市民アンケートの結果でも

重要度は高い、その一方で満足度が低いというのが道路のインフラでございます。国道 126 号線や県道の整備促進を要望しながら、市道も整備を行うことで長期的なビジョンを持ちながら行う必要があるというところで、成長戦略(長期)として、重点分野として設定したいと考えております。

通番 2 です。同じく施策 1-1 から基本事業②「成田空港周辺地域としての基盤整備」です。今後、成田空港の機能強化に向けて、成田方面への通勤をはじめとしたアクセス改善が必要だと考えております。逐一、必要なところに対して一定の箇所数を行っておりますので、成長戦略(短期)として設定したいと考えています。

続いて、通番 3 です。同じく、施策 1-1 から、基本事業④「駅周辺の利便性の向上」でございます。市内には成東駅、日向駅、松尾駅と 3カ所の駅がございます。現在は成東駅南側の駅前広場の整備を行っておりますが、引き続き長期ビジョンを持ちながら取り組む必要があると考えますので、成長戦略(長期)として設定したいと考えております。

ページをおめくりください。2 ページです。通番 4、同じく施策 1-1 から基本事業の⑥「まち並み・家屋・土地の適正管理と有効活用」です。人口減少により空き家が増加しております。現在、空き家に係る実態調査を行っておりますが、将来的には空き家バンク創設に向けて取り組みたいと思います。移住気運の醸成も必要だと思いますので、成長戦略(短期)として設定したいと考えております。

続いて、通番 5 です。施策 1-2 「公共交通網の整備・充実」のうち、基本事業①「市内における交通手段の確保」です。現在、さんバスやあいのりくんといった公共交通を運営しております。免許返納者の方にも使いやすいうよう支援してございます。高齢化が進むと日常の足の確保が欠かせませんので、人口減少対策として設定したいと考えております。

続いて、通番 6 です。施策 3-1 「農林水産業の振興」のうち、基本事業②「担い手の育成・支援」です。実は、市内の農業従事者の 6割以上は 60 歳以上の方になっております。農業が基幹産業と言える山武市でありますので、その後継者を含め認定農業者や新規就業者の育成支援を行う必要があると考えておりますので、成長戦略(短期)として設定したいと考えております。

次のページ、3 ページ目、通番 7 です。施策 3-2 「商工業の振興と地域経済活性化」のうち、基本事業③「企業立地と企業定着による雇用の促進」です。こちらは職員アンケートでも高い順位でございました。人口減少の主な要因に、高校、大学卒業後の進路選択があると思います。まずは、足元の取組として就職フェア等により就業マッチングを支援するとともに、今、市内にある企業が未永くビジネスを続けられる環境づくりが重要だと考えております。中長期的には、圏央道完成後の展開もありますので、成長戦略(長期)として設定したいと考えております。

続いて通番 8 です。同じく、施策 3-2 基本事業④「成田空港経済圏の形成」

です。成田空港の機能強化によりまして、現在の発着回数 30 万回から、14 年後の 2032 年には年間発着回数が 50 万回に拡大される予定となっております。空港は騒音等の悪影響をもたらすものでありますが、それを十分補いつつ、さらに空港の発展と、この地域の発展が結びつくように長期的な視野を持って取り組む必要があると考えますので、成長戦略（長期）として設定したいと考えております。

続いて、通番 9 です。施策 3-3 観光の振興のうち、基本事業②「海岸を活用した観光推進」です。山武市は県内でも有数の 6 つの海水浴場を有していますが、この 10 年で、その利用客も 3 分の 1 程度に低迷しております。そこで 1 つ大きな旗印として、ヨーロッパ発祥の「ブルーフラッグ」と呼ばれるビーチの国際環境認証がございますので、その取得に向けて取り組んでまいりたいと考えております。こちらは県内 1 番目を目指しまして成長戦略（短期）として設定したいと考えております。

ページをめくっていただきまして、4 ページ目、通番 10 です。施策 4-1 「高齢者福祉の充実」のうち基本事業①「生きがいくくりと介護予防の推進」でございます。人口推計上では、7 年後、2025 年には、「65 歳人口」と呼ばれる老年人口のピークとなる見込みでございます。できるだけ地域で元気に自立した生活を送れる人を多くしていくことが非常に大切なこととなります。人口減少対策として設定したいと考えております。

通番 11 です。施策 4-3 健康づくりの推進のうち基本事業④「医療体制の充実」です。山武市が設置主体の病院に地方独立行政法人山武医療センターがございます。現在の病棟は設立から期間がたっており、老朽化や狭あいの問題が出ております。高齢化等の問題もありますが、これからも安心して安全に暮らせるまちづくりとして財政的にも大きな負担がございます。人口減少対策として設定したいと考えております。

続いて、通番 12 です。施策 4-4 「子育ての支援」のうち、基本事業①「幼保機能の充実」です。山武市は他の市と比較して、いち早く保育園、幼稚園のこども園化を行っております。子育て支援センターや子育て世代包括支援センターの「はびねす」等、施設面の環境は遜色なく整っております。周知等に努めながら引き続き成長戦略（短期）として設定をして取り組んでまいりたいと考えております。

ページをおめくりいただきまして 5 ページ、通番 13 でございます。施策 5-1 「学校教育の充実」のうち、基本事業①「『確かな学力』の向上と『活きた学力』の推進」です。平成 28 年度から地方創生の取組の一環として、英語教育の充実をはじめ、地域の特色に合った教育を行っております。成長戦略（短期）として設定したいと考えております。

続いて通番 14 です。同じく施策 5-1、基本事業⑤「ICT 教育の実践」でございます。こちらは、松下市長が着任されてから新たに見直しして設置した施策となります。

恐縮ですが、資料2、施策・基本事業に係る成果指標（調整案）、先ほどカラー一刷りの分があったかと思いますが、その資料と併せてご覧になっていただきたいと思います。

2ページ目をご覧いただきたいと思います。5番のところですか。今までこの5番の「教育環境の充実」に「情報化教育に係る取組」が含まれておりました。山武市では、電子黒板やタブレット等、いち早く導入し、ICT教育の支援員を配置して情報教育に特化した取組を行っております。市の取組をきちんとPRすることも必要だと考えて、個別の施策として改めて決定することといたしました。今後さらにICTを活用できる人材が必要とされることが見込まれますので、成長戦略（短期）として設定をし、引き続き情報化教育を推進してまいりたいと考えております。

資料4-2に戻っていただきたいと思います。通番15でございます。施策6-1協働と交流によるまちづくりのうち、基本事業②「市民活動の活性化」でございます。人口減少が進むと、今まで地域で当たり前のようにできていたこともできなくなるときを迎えるものと考えております。市民協働という視点で地域コミュニティを守る取組を推進したいと考え、人口減少対策として設定したいと考えております。

ページをめくっていただいて、6ページ、通番16です。施策6-2「開かれた市政とまちの魅力発信」のうち、基本事業①「情報発信力の充実」です。先ほど、現在の総合計画の進捗状況でも情報発信に係る指標には鈍いところがございます。市としては、当然、さまざまな事業を一生懸命に取り組んでいるのですけれども、もう少し市民の方、または市外の方にも山武市の取組を知ってもらいたい、それを呼び水に、少しでも循環を生み出したいと考えております。まさに戦略的に行うものとして成長戦略（短期）として設定したいと考えております。

最後になります、通番17です。施策6-3「計画的・効率的な行財政運営」のうち、基本事業の③「健全な行政運営」です。山武市も、ご多分に漏れず、人口が減るとともに税収等の歳入が減少してくると予想しています。一方、高齢化が進んでおりますので、社会保障費をはじめとした歳出の増加も予想されます。財政規律をもって安定的な行政運営を行うことは大変重要だと心得ておりますので、人口減少対策として設定したいと考えております。

以上、雑駁ではございますが、重点分野の17事業を説明させていただきました。資料も事前に送ってはいるのですけれども、説明に足りない部分もあったかと存じます。

私からの説明は以上でございます。慎重審議いただければと思います。よろしく願いいたします。

金子会長

はい、ありがとうございます。ただいま事務局から資料に基づきまして、(2)重点分野の設定について説明がございました。前回の総計審では、序論として、

計画書の構成、社会環境の状況など、計画策定の背景の説明がございました。その中でも人口の構成や転入・転出の状況は決して楽観的に捉えられないものでございました。市長の先ほどのごあいさつの中にも、全ての施策を人口減少対策につなげるというご発言がありましたが、それを計画として具現化するには、今、中村課長から説明がありましたように、メリハリをつけて、これぞ山武市という特徴が出せるまちづくりが必要だと思います。

それでは、ここから皆様方のご意見、ご質問を賜りたいと思います。ご質問、ご意見がある方は挙手によりご発言をいただきたいと思います。ご発言の際は前にあるボタンを押していただいて、マイクを使って発言していただければと思います。どなたからでも結構ですので、お願いいたします。

では、小林委員、お願いします。

小林委員

小林です。よろしくお願いします。すみません、私、知らなかったのですが、ブルーフラッグ認証について教えてください。

金子会長

はい。では、事務局からお願いします。

越川経済環境部長

それでは、今のご質問にお答えします。ブルーフラッグは国際環境認証で、まず水質、環境マネジメント、安全性とサービス、それと環境の教育・情報発信、その4つの分野があります。ブルーフラッグの認証を受けるに当たっては、その中で33の認証基準がございます。それをクリアしなければいけないという中で、目指そうとしているのは山武市の本須賀海岸で認証を受ける予定で進めております。

まずはきれいな海ということです。本須賀海岸の白砂青松のきれいな海を次世代の子どもたちに残していくという中で、子どもたちを交えた人にやさしい海ということでの、そういった学びの場を設けたり、障害者にやさしい海水浴場とか、そういったことを目指しながら本須賀を地域の皆様方、関係者とともに安心、安全ですばらしい海を残していきたいと思います。毎年これを受けなければならないということで、多少、ハードル等もございますが、来年の5月の認証取得に向けて、先般、2日間にわたりまして認証機関であるFEE Japan、あと日本ライフセーバー協会の方々がお見えになりまして、本須賀海岸の現状を見た中での課題等、チェック項目によりまして今、進めているところです。

市といたしましては、海岸の利活用という中で、これを機に、千葉県で一番目の認証、海水浴場本須賀海岸ということで広くアピールにつなげていければという考えのもと、今後取り組んでいきたいと考えているところでございます。よろしくお願いいたします。

金子会長

はい、ありがとうございました。よろしいでしょうか。ほか、ご質問、ご意

見がございましたら、では、神余委員、お願いします。

神余委員

神余でございます。資料4-1重点分野の設定について、言葉の問題なのかなど、お聞きしながらちょっと考えていたのですけれども、2つの事柄を同時に進行するというふうにもあります。1つはアクセルを踏むということで人口増加、もう一つは減ったときの対策という意味合いをここに書いていらっしゃると思うのですけれども、前回配られた資料をお見受けするに、山武市では、この20年間で6,000人、人口が減っている。ただ、そのうち0歳から10歳までは5,300人減り、15歳から64歳は7,000人減っているんです。増えているのが65歳以上の方々に6,300人増えていると。人口減少って、とてもはやり言葉なので、イメージをパッと思い浮かべるのかもしれないのですけれども、人口減少して何が悪いのだろうちょっと考えたときに、人口減少というよりは、働いている人が少ないまちというのが活気のないまちなのではないかなというふうには思うのです。

おそらく、重要分野の人口減少対策というのは、ご説明していただいている内容を見ても、これは高齢者人口増加対策のような意味合いに聞こえてくるのです。これは大変重要なことで、これからどうしてもお年寄りが増えてきますし、私なんかは第二次ベビーブームの人間ですので、我々が老人になったときに、どうやったら快適に過ごせるのかということを考えてほしいというのがあるんです。

もう一つは、少子化。この2つを全部「減少」と言ってしまうと何か言葉がうまく伝わらないのではないかと思ったのです。高齢者の人口は増加する、少子化の中で、例えば、小学校に通う子どもたちが少なくなる。では、小学校をなくせばいいのかと、そんな話ではなくて、どうやったら少ない子どもたちが、よりよく教育の場を提供していただけるかということが重要です。今までと同じ行政サービスではなくて、例えば、統廃合もあるかもしれないのですけれども、バスで通えばいいじゃないかとか、家までバスで迎えに来てとか、そんな積極的な取組も必要なのかなど。

上のA、Bは、ただ単に人口を増やすというのであれば、ほかの市から取ってくるしかないんですよ。でも、おそらくそうではなくて、そこは質問になってくるのですけれども、何を目指しているのかとずっと読ませていただくと、何となく、生産年齢人口の中でも労働力人口、働いている人が住みたいまち、働いている人が住めるまちというか、かつ、女性も働け、高齢者の方も働け、65歳以上の人口の方が増えたとしても働いている人が多いとか、そういうまちづくりを目指されているのかなど。細かく、小さいほうを見るとそういうふうに見えてくるのですが、一言、人口を増やす成長戦略、人口減少対策というネーミングにしてしまうと、市民の皆様の中でイメージが取りづらいのかなとちょっと思った次第でございます。

ちょっとわかりづらかったかもしれないのですけれども、以上です。

金子会長

はい、ありがとうございます。では、事務局から、いかがでしょうか。

事務局

こちらにつきましては、ちょっと地方創生の流れも踏まえまして、簡単に今までの経緯の面をご説明させていただきたいというふうに考えてございます。

平成27年度に山武市でも全国1,700ある自治体と同じくしまして、地方創生戦略というものを作りまして、ここでも今おっしゃったように、人口減少という問題があるのですが、それは当然、少子化ということで、出生率も今、山武市だと1.02で、人口を大きくするためには1人の女性の方が生まれる率というのを「合計特殊出生率」と呼んでいるのですけれども、それが2.07以上ないと人口はキープできないという話がございます。この出生率を上げつつ、もともとお子さんが生まれる年齢というのが、統計上は15歳以上から49歳以下の女性の方なので、その人口自体が減ってしまうと幾ら出生率を上げても人口減少は止まらないという、その少子化の問題も当然あるかというふうに考えてございます。

一方では高齢化の問題もございまして、まち自体も医療とか介護、福祉の分野でそういった需要が増えていきますし、働く労働者の方が減っていきますと、市としてのにぎわいは失われていくのだろうなというふうに思います。

そういったことを、少子化対策を地方創生の分野では「積極戦略」と呼びまして、高齢化対策については「調整戦略」というような呼び方をして整理を行っているのですが、ただ、一般の市民の方々も、積極戦略と調整戦略と言ったところでパッとイメージがつかないものですから、今回、総合計画をつくるに当たっても、人口を増やすというのは伸びるというイメージがありますので、成長戦略というところで、ネーミングを行って、人口減少対策というのは、端的に言うと高齢化対策に近いものもあります。例えば、少なくなった税収のもとに、道路インフラとか、橋梁とかも老朽化してきますとかなり危ないものもございまして、必ずしも全部が高齢化対策と呼べないものですから、ちょっと、ネーミングにつきましても非常に今回、一ひねりも二ひねりもしたのですけれども、少子化も高齢化もあわせて人口減対策という言い方をして、その中でも高齢化に近いものを人口減少対策ということで、「少」を入れたり入れなかったりして使い分けはしていたのですけれども、それでもちょっとわかりづらい部分がありますので、今、神余委員からご指摘があったのは、こういったネーミングだと、なかなか市民の方々にとって伝わりづらい部分があるのではないかというご意見だったと思いますので、もう少し検討させていただきます。

ただ、この分野についてはすごく表現が難しいので、必ずしもきちんとわかりやすいネーミングを生み出せるかどうかもあるのですけれども、ご意見として承ってもう少し工夫ができないかどうか、持ち帰らせていただきたいと思います。

以上でございます。

金子先生

はい、ありがとうございます。他にございますか。小川委員、お願いします。

小川真実委員

小川でございます。たくさん聞きたいことがあるのですが、1つずつでいいですか。結構、聞きたかったのです。先ほど他の委員からも発言があったとおり、やはり、まちづくりを展開するに当たって、人を増やす問題と高齢者対策の問題というのは、事務局の説明があったとおりで、大方針はそれに尽きると言うんです。自然出生率を上げていく問題と、社会的な異動を伴って、よそのまちからぶんどってくるという話なんですけれど、そういうようなことをやっていかないと、というのは重々承知しております。だから、ここに挙げた重点分野の設定については、基本方針については特に異論はございませんが、それを展開するに当たって幾つか気をつけたほうがいいなということを、地方創生をちょこちょこやっている者として、少しコメントさせてもらえればなというふうに思っています。

冒頭に会長からも挨拶があったとおり、やっぱり1つのことがきっかけになって複数の問題というのが解決することがございます。例えば、人口減で悩んでいる館山市もそうなんですけれども、移住・定住を増やすに当たって東京に出て行って移住フェアに積極的に参加したと。当初、平成19年に行ったときに2、3人ぐらいしかブースに来なかったのだけれども、今では100件ぐらいの問い合わせがあるようにまで育ったと。だから、育てるという発想が、この重点分野を設定したところで各施策に求められるのではないかと思います。だから、継続性です。そこがまず大きいのだと思います。

また、今回の施策の中で特に興味深いのは、成田空港に関連する取組だと思います。前回の会議でご説明を伺ったとおりなのですけれども、これまで成田空港に関連させる取組が少なかった。成田空港というと騒音とかで、どうも、あまり歓迎すべき存在ではなかったのかなというふうに思ったのですけれども、どうやらよく見てみると、これはもしかすると宝の山かもしれないというものがここに幾つか紹介されているのだと思います。

そこで、関連させて言いたいのですけれども、同じく空港を持っている関西国際空港があります。あそこに対岸にある泉佐野市、ふるさと納税で130億ほどガッツリ稼いでしまっただけで今度は総務省に目をつけられたというところがあります。あの中で、僕、ちょっと拝見させてもらったのですけれども、ふるさとに帰る人たちを応援する取組をやっています。LCCのピーチ、あそこのフライトバウチャー50%補助です。だから、そういうのが目を引いてどんどん都会からふるさと納税を集めているということがあるんです。

ちょっと感想めいた話になってくるんですけれども、健全な財政運営を考えていく上でも、成田空港をもうちょっとうまく使ったほうがいいのではないかと思います。ただし、総務省とどうやって折り合いをつけるかという問題もありますが、そこはちょっとご指摘しておきたいなと。

ここも人口減少対策というのがあるんですけども、私は専門が財務とか会計をやっている側なので、どうしてもお金の話から入ってしまうんですけども、やはり、ふるさと納税とかに力を入れて、ちょっと大胆な取組も場合によっては必要になるのではないかと思います。

あと、ここにはないんですけども、まちづくりの担い手というのほどこが主体というふうに考えるのはちょっと乱暴であって、いろいろな分野の方々に頑張ってもらいたいと思うんです。ここでは行政主導で計画を立てられていますけれども、やはり、これから人口が減って財政が厳しくなっていく中で、まちづくり支援会社みたいなものがあるのもいいのではないかと思います。公共サービスのアウトソーシングをしていく中で、指定管理者なども順次導入されているとは思いますが、やはり、そういう仕事を民間に振ると東京の業者が入ってきて、ガッツリ、本社に上前をはねられるんです。地元で金が落ちるケースが、実はあまり多くないんです。とすると、やはり、そういった仕事をまちづくり支援会社みたいなものが獲得して、そこで上がった利益でシティプロモーションとかを積極的に進めていくというのが、持続可能なまちづくりにとって大事になるのではないかと思います。その先駆的な事例として、熱海が観光のまちとして復活を遂げてきているというのが事例としては紹介できるかと思えます。

あと、気になったのが、資料4-2、重点分野設定に係る検討表の通番10「高齢者福祉の充実」のところなんですが、これ、前期高齢者の話ですよ。できれば、後期高齢者の方でも介護の認定を受けずに頑張っていってもらいたいのにこしたことはないと思うので、そこはちゃんと追跡調査できるような体制はとっておいたほうがいいのではないかと思います。なるべくならば健康寿命を伸ばす。そして高齢者の方には、バイトでもかまわないので何か仕事にありつけやすいようにする。

千葉から高速を使ってこちらに向かっているときに、インターをおりてからこちらの国道に出る前の道って、当初は広いんですけども、だんだん空き家とかもあって狭くなる道もあって、大型のダンプカーとすれ違うとちょっと怖いんですよ。あの辺あたり何とかできないかなというふうに思うんです。あと、どこの自治体でも見るんですけども、そういう道路沿って草ぼうぼうです。ああいう草刈りとかは、シニアで元気な方にバイトで世話するというようなことを考えてもいいのではないかなと。草刈りとかだと、農業とかをやっている方だとなれていってもらいたいじゃないですか。やはり、使えるお金が多いと生活する者にとっては豊かだと思えます。幾つになっても仕事があるというのは大事なことはないかなというふうに思えます。

続きまして、あまり整理してなかったのがちょっと矢継ぎ早になってくるんですけど、通番15で、「市民活動に参加したいという市民の割合」を増やしていくということ、これも大事だと思います。これが持続してそういうまちの景観をよくするための活動であったりとか、小商売のような経済活動が育って

いけばいいかなと。だから、結局はまちづくり支援会社みたいなものがある、そういう活動をしている方々がもっともっと育っていくような仕組みがあると、生涯現役が営めるのではないかなというふうに思います。

また、通番 14「学校教育の充実」のところで、教員の負担軽減に関する校務支援体制を構築するというのが、教員をやっている側からも特に思うのですけれど、できれば I C T 機器を入れるに当たって現場の声を聞いてほしいのです。

私、とある自治体で、小大連携というようなお仕事、社会実験をちょっとやらせてもらっているのですけれども、大学生を小学校の現場に派遣して授業サポートするような社会実験をやっているのです。それで、職員室の風景を見るのですけれども、ノートパソコンを 1 台与えて、それで仕事をしてもらっているのですけれども、僕らから言わせると、まずないです。やはり、マルチディスプレイにして、片方でワードを上げて、片方でエクセルを上げて作業しやすい環境をつくっていくことを始めるんですけれども、どうも行政とか教職、義務教育の現場を見ているとそういう発想はないんです。そうすると、1 人 1 台のノートパソコンで仕事をしていると作業効率は悪いです。やはり、働き方改革を考えていく上でも作業効率を上げていったほうがいいと思います。

あと、幼保機能の強化というふうにあるんですが、これは、お子さんをお持ちになった親御さんたちだったらわかるのですけれども、やはり、早期教育というのは大事だと思います。幼稚園や保育園で教育するというのは、できるものだったら、むしろちゃんと教育してほしいです。

それに関連させて、子どもを抱える親として思うことは、幼稚園・保育園から小学校に上がる時「小 1 ショック」と言って、環境の変化に適應できない子っているんです。もしかしたら、現場でやっていらっしゃるのかもしれませんが、小学校と幼稚園、保育園の連携であったりとか、中学校と小学校の連携とかというのも検討してほしいというふうに思います。

まず、ちょっと気がついた点で幾つか挙げさせてもらいました。私のほうから以上でございます。

金子会長

はい、ありがとうございます。幾つか論点があったかと思うのですけれども、お答えできる範囲でお願いできればと思います。いかがでしょうか。では、保健福祉部長、お願いします。

小川保健福祉部長

保健福祉部長の小川と申します。私のほうから、まず通番の 10 番、「高齢者福祉の充実」ということで、実は、先生のおっしゃるように、これは元気な高齢者の活用を検討するものでございます。内容的には、介護保険特別会計の中、介護保険法の介護予防日常生活支援総合事業というメニューがございまして、その中で市独自でサービス基準を軽減してサービスを提供することができるという制度がございまして、基準を緩めることによって、地元の高齢者の方々を担い手として、例えば、ホームヘルプの家事援助等のサービス等を提供していき

	<p>たいというのが今回の取組でございます。元気な高齢者の方々については、既に担い手の育成講座等も開いており、社会福祉協議会やシルバー人材センターのほうに入っていて、そこでサービスを提供していきたいというのが、この制度でございます。</p> <p>続いて子育て支援のこども園関係でございますが、ここに載っているものについては、いわゆる病児保育の支援を、今後、議会等からの要望もございましてやっていきたいというものでございます。内容的には、民間のベビーシッターを幼児の家庭に訪問させて、それに対して補助をつけようというのがこの内容でございます。</p> <p>先生のご指摘がありました「小1ショック」につきましては、教育委員会とこども園とで既に連携をとりまして取組を進めているところでございます。</p> <p>以上です。</p>
金子会長	<p>はい、ありがとうございます。他にお答えいただける、では総務部長、お願いします。</p>
石橋総務部長	<p>先生から、成田空港を絡めればというお話がございました。まさしくそのとおりで、どうしても騒音の面が大分表に出てきているんですけれども、その裏で、成田空港は良好な就職の場ということで、十分にそこを使ったまちづくりということでこれからも取り組んでいきたいと考えています。</p>
金子会長	<p>他にありませんでしょうか。回答は以上でよろしいでしょうか。では事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>ただいま小川先生から7つほどご意見をいただいて、それぞれ考慮していきたいと思うのですけれども、ちょっと誤解を生むとまずい点が1点だけございましたので、ご説明させていただきますと、成田空港に関連して、関空の近くの泉佐野市のふるさと納税の事例を紹介されていたと思うのですけれども、総務省からの連絡ですと、換金性の高いものはだめだということで、この近くだと芝山町がANAコインを導入されていて、県内でもトップのふるさと納税を集めていたのですけれども、この点についてはだめだということもありましたので、ちょっと検討の方向性を変えなければいけないと考えてございます。</p> <p>以上でございます。</p>
小川真実委員	<p>あれはフライトバウチャーの話で、神崎町でもやっていて、ふるさと納税1万円寄附するとJALの30%分、ポイントを回すという話、ポイントは転売できないから。</p>
金子会長	<p>では、回答は以上でよろしいですか。では、小関委員、お願いします。</p>

そういう山武市にぜひ、距離的には、当然、成田に住むなら成田に住んだほうが利便性もあるし、いいというのはわかります。そうではなく、山武市の魅力を知っていただいた中で、本当に住みたくなるというのは、やっぱり、そこに住んでいる人が多分そういう人たちをどんどん呼んでくるのかなと思っています。当然、長く働く場所もなければいけない。先ほどから出ている、高齢者がいかに元気で、人の手を借りないで暮らしていけるか、これも非常に、自分もだんだん年をとりますので、今から体を鍛えたい、寝たきりにならないように頑張ろうかなと日々思うのです。

話はあまりまとまりませんが、市の中でもまちづくりについてのいろいろな会議はやっていると思います。ただ、実際に、市全体の中での広く、将来の山武市を考えてまちづくりというのは、今のところないのが現状かなと思っています。やはり、いろいろな部署でそういうことをやるよりも、ある程度、そういう方々を集めた中で、それを検討する場があってしかるべきかなとは思いますが。

以上でございます。

小関委員

市長は、ご意見ありますか。

松下市長

振っていただきありがとうございます。空港の機能強化に関しましては、私も非常に、初めはあそこの騒音とか、対策が正直、大変だなと思っておりました。しかし、この機能強化に当たりまして従業員が増えるということもありますし、非常にチャンスであるというふうに捉えております。しかしながら、一方、騒音を受ける地域もございますので、あまり表立ってチャンスだということもいかがかというところもあるわけでございます。ですので、私は騒音とは別としてというような言葉を添えまして、これはチャンスだからしっかり取り組んでいこうということを就任当時に市の職員に話したのではないかと考えております。

それで、私も就任してから空港の関係、NAAの社長、またその下の方々とか、日本航空や全日空の方とか、お話をしたときに、やはり、私の地域は騒音下から離れるところもあるわけですが、上空は飛行機が飛んでいますので、落下とかがある可能性は重々あるわけでありまして、そういうところの支援はしていただきたいということでお願いしております。

その中で、成田空港から道路一本で、松尾、蓮沼に来られる地域であります。そして、蓮沼地域には新しく避難タワーを含めたものとか、トレーニングジムとか、そういうものも備えたものができています。それで、成田空港に勤めて、そしてまたこっちに帰ってくれば海もあるというように、住むにはすばらしいところであると思っていますので、そういうのを社長とかにお願いしながら、山武市に住んでいただきたいなというふうに思いました。

今日ちょっと遅刻したのは、山武市内にありますパラマウントベッド様が来

	<p>てくれまして、その方々、従業員の方々は山武市に住居を構えるようにということで、上のほうから指示をしてくれております。その中で婚活事業もやっていきたいというようなお話も先ほどしたところでありまして、とにかく山武市に住んでいただきたいという思いをはせながら、いろいろなところへ行ってはそのように話をしております。そういう機会も、これからも必要であれば、また考えていきたいというふうに思っております。ありがとうございます。</p>
金子会長	<p>はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。では、神余委員、お願いします。</p>
神余委員	<p>私、市民ではないので、今の話の関連でちょっとお伺いしたいのですが、山武市に住んでいる皆様は、成田空港で働くというのは誇りですか、それとも、働きたいというふうな思いが強いのか、それとも、いやいや騒音だしというところで、あまり近隣に住みたくないとか、そんなふうに思ったりもするんですか、どちらですか。</p> <p>そういうことを考えると、例えば、山武市に住んでいる方が積極的に成田空港で働きたいと思われるのであれば、そういった山武で育った子がどんどん行きなさいというような取組もされてもいいのかなど。でも、山武に住んでいる方々は、いやちょっと成田空港で働いていることはちょっとご近所には内緒にしておきたいというふうなことなのであれば、また別の話だろうなとちょっと思った次第です。</p>
金子会長	<p>これはどなたか、事務局の方か、あるいは委員の方からでも。では、総務部長、お願いします。</p>
石橋総務部長	<p>非常に難しい質問でして、どうしても空港、どちらかというとな華やかな業界というイメージがある中で、いま一步、何かハードルが高いようなイメージを持っている方もいらっしゃる、どうしても、空港っていろいろな仕事がありますので、各種、空港でやっている仕事の魅力、それぞれの分野で、それぞれ活躍している方が、それぞれ魅力を語っていただけるようなDVDを実は作成いたしました。それを子どもたちに見せて、なおかつ、芝山町、横芝光町、多古町と連携して空港の方をお呼びして空港の魅力のお話をしてもらったり、そういう取組をしながら空港の魅力をアピールしていくような活動を、子どもたちにはしているということでございます。</p>
金子会長	<p>では、進士委員、お願いします。</p>
進士委員	<p>P T A的な話から言いますと、空港で働いている人はP T A活動にとっても参加しづらい。P T Aだと、大体、土日とか、曜日が決まっているものが多いの</p>

ですが、空港で働いている方は三勤二休とか交替制でお休みを取っているほうが多いので、PTA活動にとっても参加しづらいという話は聞いています。なので、どこで働いているかを隠す傾向にあります。話してしまうと、「まあ、空港だからね」と言われてしまうとか、そのために友達ができづらくなるというのもあるらしく、隠す傾向にはあります。

また、市民活動に参加したいと思う市民の割合を上げたいというのがあったと思うのですが、うちの地域では去年、まちづくり協議会を立ち上げたのですが、その中で「市民活動にどれだけ参加したいですか」というアンケートを小学校区の人にとったんですが、8割以上の人は、「何か機会があればやりたい」とは言うんですが、「休みの関係で」とか、そういう制限が結構ある人は、大体そういうシフト休を取っている方が多かったです。

うちの地区にもよるのかなと思いますが、女性の参加率はわりといいんですが、男性がそういうところに働いている方が多いために、男性の参加率がとても悪く、PTA活動的には、まあ何と男性がふがいないという状況が何年も続いておりましたので、男性がPTAというか、そういう市民活動に参加しやすいまちづくりをしないと、結局、女性に負担がかかってくる。なので、市に住みやすくなるような、ずっと住んでいitくなるようなまちづくりをしてほしいなど、この計画表を見て思いました。

以上です。

金子会長

はい、ありがとうございます。では、ほかに質問はございますか、あと1つか2つぐらいお願いします。相原委員、お願いします。

相原委員

先ほど来、人口減少対策というのが1つ、おっしゃっていて、重点的に取り組むということのようですが、前の資料で、近隣市町村、例えば東金市とか近隣の市町村の転出入の状況を資料として出されたと思うんですが、それだと転出のほうが多いわけですね。そもそも、そういうのはなぜそんな状況なのか。日本のこの地域に住みたいと思うならば、どこに住もうかなと思ったら、東金市なのか、佐倉市なのか、山武市なのか、匝瑳市なのかよくわかりませんが、いろいろな状況の中で、交通条件とか、そういうものからすれば、比較的、鉄道とかそういうのも恵まれていますし、そういう状況にある中で、なぜ他のほうに転出しているのか。転出入人口が出のほうが多いという状況について、少し分析して、それに対していい方法、当然、「住みやすい」とか「住みたい」とか、あるいは「ずっと住んでいたい」とか、そういうキーワードはあるのでしょうか、いずれにしても、そここのところはなぜかというのをもう少し分析してみて、この中に載っているのを整理されているのかもわかりませんが、どうも、まず、そういうところが重要かなという感じがしたので、できたらお願いしたいと思います。

以上です。

海保委員	関連してよろしいですか。
金子会長	では、海保委員、お願いします。
海保委員	<p>今の相原委員のお話からですけれども、結局、若い人たちが出て、ほかで家庭を持って、ほかで生活している。実際に、じゃあ、こっちに帰ってきたいという気持ちもあるけれども、仕事の関係でできないというのもある。それで一番気になるのは、少子化、少子化と言いながら、じゃあ、自分の身近な人がお産をするときに、この地区でかかれる産婦人科がどのぐらいあるのか。まずないんじゃないかなというのが、私、あるんです。そうすると、実際に若くして家庭を持ったときに、この地だと子どもが生めない、そういうこともあるんじゃないかと、1つあります。</p> <p>それから、ここが嫌で出ていくか、死んでしまっていなくなってしまったというのは全然別で、ここが嫌で出ていくわけではないけれども、そういう面で十分ではないと。では、もうちょっと安全なところに行こうという形で住んでいる若い人たちもいるのではないかというような気がします。</p> <p>それから、もう一つ、「医療体制の充実」というのが出ていますけれども、では、皆さんはどういうふうに聞いているのかわからないけれども、私に伝わっているさんむ医療センターの評判はすこぶる悪いんですね。ほんとうに悪い。何が悪いかといったら、先生同士の仲が悪いし、医者と看護師の仲も悪い。そして、廊下で立ち話をしている看護師さんは悪口を、誰かが近づいてくるとピタッと話をやめるような状態なんです。それは何の話をしているのかわからないけれども、それだけで感じが悪くなります。多分、全部とったら、非常に評価は低い現状があると思うんです。これはどんなに医療機器をそろえても、そういう評判ができてしまっていたら、それを復活させていくにはなかなか大変だと思うし、ちょっと体の調子が悪い人が、ずっとここにしようかなと思って、近くにそういう信頼できる医者がない、医療制度がない。であれば、出ていくしかないと思うんです。</p> <p>私は、ほかから連れてきて増やすよりも、まず出ないようにするにはどうしたらいいか。また、若い人たちがここに来るにはどうしたらいいかというのを、やっぱり私は考えてもらいたいなど。</p> <p>もう一度聞きますけど、この近辺でお産ができる医者はどのぐらいありますか、知っている方は手を挙げていただきたいと思います。</p>
金子会長	では、今の相原委員と海保委員の質問、意見に対しまして、事務局からお願いします。保健福祉部長、お願いします。
小川保健福祉部長	お産のできる病院ということで、さんむ医療センターも産婦人科の医者は2

<p>海保委員</p>	<p>名おります。お産も実際やっております。東金にあります東千葉メディカルセンターでもお産はできるようになりました。そのほかといいますと、それこそ、大きな病院、旭中央、成田日赤という形になるのだと思っています。</p> <p>あと、さんむ医療センターの接遇が非常に悪いということで、担当部長として病院のほうにも改善に努めるように伝えておきます。</p> <p>私がいろいろ聞いた範囲のことですから、それが絶対的なことではないということは頭に置いておいてください。</p>
<p>小川保健福祉部長</p>	<p>はい。</p>
<p>金子会長</p>	<p>ほかに事務局からご回答はございます。では、お願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>では、先ほど相原委員からいただきましたご質問につきまして、前回、序論という形で多分、他市町村との行って来いがどうなっているのかというところをもう少し深掘りして、今回、重点分野に位置づけたのかというようなところがご質問の趣旨だというふうに考えてございます。</p> <p>実際、国勢調査の人口を経年変化で見ますと、わかりやすく言いますと、おおむね、10代、20代で一度社会減が大きく減ります。その後、30代、40代で、実はかなり転入をして、そこでバランスをとって、相殺するとそこまで社会減がなかったという状態なんですけれども、平成10年代の後半から、それがだんだん減ってきているというのがあります。</p> <p>転出者向けには、個別に「転出入者アンケート」というものも行ってございまして、Uターン率というのを、ある意味では考えているのですが、10代、20代で通学とか通勤で仕事が決まりますと、どうしても仕事に合わせて住宅選択を行いますので、そこで一度、転出されるんですけれども、その後の要因分析をしますと、おおむね半分以上の方は「戻ってきたい」という回答なんです。戻ってくるときに、一番多いパターンが持ち家で戻ってくる率が高いので、持ち家がちゃんとつくれる人は戻ってきているんですけれども、賃貸物件が少ないというご意見もいただいていますので、相対的に東金市ですとか、八街市と比べたときに、確かに、インターネット上で見かける賃貸物件の数もそんなに多くはございませんので、そういったところも要因にはあるかと思いますが、そもそも、就職時に選択するところが、東京とか千葉の上り方面を視野に入れていきますので、一部では、そういったところが成田空港方面に就業がつながれば、もう少し人口定着というのは図れるのではないかというふうに考えてございます。</p> <p>この客観的に言える部分だと、香取市が、山武市よりも2倍近く就業されていますので、香取市と山武市を比べたときの地の利で考えると、JR成田線で行くよりは、山武市はもっと通いやすい場所に立地しておりますので、空港に</p>

ついて知らないご家庭が非常に多いと思いますので、子どもたちだけではなく、家庭にもう少しアプローチしたほうがいいのではないのかというのは、実は、芝山町、横芝光町、多古町との連携会議でも話が出ており、就業については、もう少し、東京、千葉だけではなくて成田方面もあるということを知っていただくというのが第1ステップだというふうに考えてございます。今回、成田空港方面に特化して4年間での実現性を踏まえ、まずそこから着手しようということで重点分野に位置づけてございます。

至らない部分はありますけれども、説明としては以上でございます。

金子会長

はい、ありがとうございます。終わりの時間が大分近づいてまいりまして、皆様からの意見はここまでとさせていただきたいと思っております。

先ほど、さんむ医療センターの話がありましたけれども、私は、この委員会とは別に行政改革推進委員会でも毎回議論させていただいている中で、毎回やはりさんむ医療センターの議論は出てきまして、今日、冒頭で、何か、1本を抜いたら全部つながっているじゃないかという話をしましたけれども、さんむ医療センターの問題を解決すると、何かいろいろなところに派生していくのかなというのは、今日も伺っていて感じたところです。

それでは、重点提案につきましては、今日、皆様方からご意見をいただいたものを踏まえまして、今後の計画審議の提案に当たり、まとめの際にはフィードバックされるものと考えております。

ただいまの質疑をもって議事を先に進めさせていただきたく存じます。

当審議会としましては、総合計画に対して重点分野を設定すること、また、具体的な実施に当たっては改善・改良が入るかと思っておりますが、取り上げる項目も、説明があった17事業とすることに異議のないことを確認したいと思います。いかがでしょうか。今日の17事業を重点項目するということで、異議なしでよろしいでしょうか。

各委員

(委員からの異議なし)

金子会長

ありがとうございます。では、本件につきましては異議なしとしたいと思います。

その他となりますが、委員の皆様方から何かご意見はございますか。

今日、2時間ほど議論させていただきましたけれども、やはり、このまちの方向性とかグランドデザインを決める委員会、私が今日感じたことは、この2時間という時間だけでは短いなと思っております。前回も感じたのですが、二泊三日ぐらいの合宿で議論したほうがいいのではないかというぐらい重たい内容かなというふうに感じました。

それでは、ほかの皆さんから意見がないようでございますので、一切の議事が終了しましたので、ここで議長の任を解かせていただきたいと思います。ご

<p>石橋総務部長</p>	<p>協力いただきましてありがとうございました。</p> <p>【7. その他】 長時間にわたるご審議、ありがとうございました。 最後に、次第の7のその他になります。事務局から今後の会議予定等につきましてご連絡をさせていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは最後に、事務局から今年度のスケジュールについてご連絡をさせていただきます。</p> <p>お配りしてある資料の中で、資料の参考2、A4横判です。第2次山武市総合計画策定に係る進捗状況（平成30年8月現在）というA4横カラーの、横軸にスケジュールが伸びているものをご覧ください。</p> <p>表の左側、下から2段目に総合計画審議会という欄があります。平成30年8月のところを見ていただきますと、赤くなっているところが本日開催の会議となります。今年度は、あと2回の開催を予定してございます。11月の第2回審議会では、成果指標の目標値を含め、原案のご審議をしていただく予定でございます。そして、年が明けまして2月の第3回審議会では、第2次総合計画（案）のご審議を予定しております。会議の開催に当たりましては、後日、日程等について調整をさせていただきますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。</p> <p>事務局からの連絡は以上でございます。</p>
<p>石橋総務部長</p>	<p>【8. 閉 会】 その他、委員の皆様から何かございますでしょうか。 よろしいでしょうか。それでは、ないようですので、本日の議事は全て終了とさせていただきます。 以上をもちまして平成30年度第1回山武市総合計画審議会を閉会とさせていただきます。長時間にわたりまして大変ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">【4時00分】</p>